

特定非営利活動法人 ひらかた環境ネットワーク会議

平成 22 年度 第 3 回理事会議事録

1. 日時：平成 22 年 10 月 8 日(金) 午前 10 時 30 分～午前 11 時 45 分

2. 会場：サプリ村野 3 階会議室「ふれあい」

3. 理事総数：15 名

4. 出席者数：13 名（本人出席：10 名、委任状出席：3 名）

5. 議題

報告事項 平成 22 年度事業計画及び収支予算中間報告の件

枚方版事業仕分けの結果について

第 1 号事案 規則改正の件

6. 議事経過及び結果

(1) 鎌田徹理事が本日の理事会は、定款第 36 条に定める定足数を満たして有効に成立している旨を述べて、開会を宣言した。

(2) 定款第 35 条の規定に基づき、鍛冶谷知宏理事が議長に就任した。

(3) 定款第 39 条第 3 項の規定に基づき、議長が議事録作成人に事務局を指名した。

(4) 定款第 39 条第 3 項の規定に基づき、議長が議事録署名人に廣田武司理事、丸井晶子理事長を指名した。

(5) 平成 22 年度事業計画及び収支予算中間報告の件

廣田武司理事は上記事項を報告、引き続き議長が質疑を求めたところ、下記要

約のとおり質問がなされ、担当者が説明を行った。

※質疑応答

西口理事：こういった環境団体が行う環境映画はそんなに大衆受けするものではなく、会員が手売りをするというところもあると思うが、例年の映画上映に比べオーシャンズの売れ行きがあまり良くない状況の理由は何か。

丸井理事：現状では2つ理由があると考えている。1つ目は上映決定時には分っていなかったことだが、同じ映画が既にPTA協議会主催で上映されたこと、2つ目は、既にDVD化され、いつでも家庭で見ることができるということ、この2つが主な理由とみている。ただ、先程も述べたように、国連の生物多様性年であり、国際会議もあるので、「生物多様性」についてより多くの人に知ってもらうために上映をおこなうので、皆様のお力も借りて、一人でも多くの人に来て頂けるようがんばってPRしていきたいと考えている。

(6) 枚方版事業仕分けの結果について

丸井晶子理事長は上記事項を報告、議長が質問を求めたところ、下記の要約のとおり意見及び質問がなされ、担当者が説明を行った。

※質疑応答

西口理事：今回、市で行われた事業仕分けは国で行っているような、削減のためのものではなく、事業に対して行政外部の意見を求めるものだ。したがって、仕分けの結果が市の答えではない。

鎌田理事：行政内部では、今後仕分けの結果を受け、どうまとめていくつもりか。

西口理事：仕分けにも見られるように、NPOに対する支援に関しては、大きく2つの意見がある。一方は、NPOは独立したものであるため、行政は支援する必要がないという考え方。他方は、必要な場合は支援の有効性を見極めつつ、NPOに対し支援すべき支援はするという考え方。環境保全部としては後者の方向で、今後厳しい企画財政部との話し合いが予想されるが、話し合いで詰めていきたいと思っている。

鎌田理事：ひらかた環境ネットワーク会議は発足から、市も入ったパートナーシップ組織として環境活動を行ってきたからこそ、これだけの成果を上げてきたと言える。そういったパートナーシップの活動は、事務的な部分だけでなく、

パートナーシップ事業の企画などもしているという点で事務局が必要だ。委託に切り替えた場合、NPO が応じられるか、あるいは行政がどのような形で委託するのかなど疑問がある。しかし、先に述べたようにパートナーシップだからこそなしえてきたというパートナーシップの重要性を行政は気づいていないのではないかと思うがどうか？

西口理事：いろいろな NPO がある中で支援が偏らないためにも、どういう風に支援するかという支援の在り方は考える必要がある。

井上理事：私は一般の人が今回の仕分けの結果をどう見たかが大事だと思う。仕分け人が当会の活動を理解して仕分けをされたとは到底思えない。市が独自でやれることはやっていると思うが、市と一緒に取り組むことで環境保全が進む分野を私たちはがんばっている。今後もこんな形で仕分けをするのは一般の人たちの反応を考えると非常に危ういと思う。市には考えがあったのでしょいうが、一般の人の当団体に対する見方にかなりの影響を与えたと思う。一方的にこちらが被害を受けた感じがする。

西口理事：おっしゃる通りで、「廃止」と仕分けした人が、ひらかた環境ネットワーク会議の活動を理解して仕分けをしたとは考えにくい点があり、問題があったと思う。行政内部で話のときは「仕分けの結果は参考にする」程度にするべきだと主張している。事業仕分けについては行政内外共に賛否両論である。

(7) 第 1 号議案「規則改正の件」

廣田武司理事は上記議案を上程し、概要の説明を行った。説明後、議長が質疑を求め下記概要の通り質疑応答を行った。その後、丸井理事長より「今後、運営委員会と理事会のあり方など団体の運営について運営委員会で検討し、その上で規則の見直しが必要だという結論になれば、理事会に再度規則の改正案を上程したいと考えている」との提案があった、この件について、議長が承認を全員に諮ったところ、全員異議無く承認された。但し、次回の理事会で運営の問題点について分かりやすい形で資料を提出することとなった。

※質疑応答

廣田理事：現在の規則では、日常発生する細かい業務に関しても理事会の承認が必要となっている。理事会は年に 2～3 回しか開催されないなので、現状のまま

は組織運営上問題がある。それを解消するため、理事会の権限の多くを運営委員会に移せるよう規則を改定したいと考えている

植田理事：規則を見直すという議案に反対しないが、見直す上で、理事会・運営委員会・事務局の組織内での役割など、内情がよく分かっていない部分がある。そこを分かりやすく提示して頂いた上で検討するという条件付きの承認でお願いしたい。

井上理事：今年度から運営委員になって初めて気づいたことだが、年 2 回の理事会に出席しただけでは団体の動きについてよく理解できていなかったと感じる。組織のあり方を考えるにあたって、理事が団体の活動にうまく入っていけるように、理事会の回数や役割などについてももう少し議論する必要があると思う。

丸井理事：皆さんの意見を受けた上で、運営委員会や理事会などの機関の役割について、再度検討するということでよいか。

杉谷氏：運営委員会で引き続き検討したらいいと思う。何が問題でどうしたら解決できるかを分かりやすい形で見せて頂きたい。

丸井理事：後日、運営委員会で話し合い、分かりやすいように資料をまとめて理事会に上程するということでよいか。

西口理事：運営委員会の役割を考えるにあたり、理事会との関係もあると思う。なぜ 2 つの機関に分かれているのかをきちんと認識する必要がある。こういった組織なので、理事の中には事業者の方もおられる。市民だけの組織ならともかく、事業者が毎月集まって理事会を行うというのは現実的にはなじまないのではないか。

植田理事：この団体は理事会主導型か総会主導型かどちらなのか。

鍛冶谷理事：理事会で決まったことを総会で承認する型だ。

植田理事：それは理事会主導型だ。

丸井理事：皆さんの意見を受け止め、運営委員会で検討するということでよいか。

鍛冶谷理事：この議案は、ここ 2～3 年、長らくの懸案事項だったので、これ以上先延ばしにしないようにしなければならない。

廣田理事：方向性だけは決めたらどうか。

丸井理事：それでは先程の意見にもあったように、理事会と運営委員会という 2 つの

機関は残したまま、組織運営上の問題点をどのように解決するかを運営委員会で検討する。そこで規則の改正が必要ということになれば、再度理事会に議案を上程するという形でよいか。他に意見があればお願いしたい。

井上理事：いいと思う。必要があれば、規約や定款の変更も考えたらいいと思う。

鎌田理事：今後はどこに問題があるのか分かるような形で話し合おう。

生田理事：組織や規約などは、団体が一番運営しやすいように変えていくのがよいと思う。

7. その他（報告、意見交換、今後の行事説明など）

(1) 報告

リーフレットが改定されたことの報告と PR の際の利用を呼び掛けた

(2) 今後の行事説明

2) オーシャンズ映画上映会

3) バス乗ってスタンプラリー

4) エコチェック DAY（配布の協力をお願い・2 大学の配布協力予定・協賛の状況）

5) 自然エネルギー学校（新聞 2 社（朝日、産経）に掲載）

(3) 紹介

1) 新任理事候補者 2 名の紹介があり、各自挨拶を行った。

議長は、以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、閉会を宣言した。（午前 11 時 45 分）

上記の議事の要領及び結果を明確にするために、議長並びに議事録署名人 2 名が次に記名押印する。

平成 22 年 10 月 8 日

特定非営利活動法人ひらかた環境ネットワーク会議 理事会

議 長 **鍛治谷 知宏** ⑩

議事録署名人 **廣田 武司** ⑩

議事録署名人 **丸井 晶子** ⑩